

上岡国夫教授定年退職記念号に寄せて

経済学部長 石川弘道

上岡教授の定年退職記念号に、いかなる一文を載せるのが相応しいのか考えた。定年退職も卒業の一つである。そこで、わがゼミ生への卒業に際しての贈り物と同様、お名前の「上岡国夫(かみおかくにお)」をおりこんで、一首詠うこととした。

数々の
みどりの若木
丘に植え
苦楽重ねば
匂う花園

上岡教授は、長年にわたり経済学部の教職課程運営委員長として、教職課程のカリキュラム編成に努力されるとともに、教職関連科目の講義担当、およびゼミにおける教職志望学生への指導に熱意を持ってあたられてきた。その結果、数多くの若き教育者がわが大学を巣立っていった。また、上岡教授は高崎経済大学附属高等学校において、校長先生として高等学校における教育実践の先頭に立ってこられた。さらに、教職関連以外でも、一般教育科長、広報委員長、学生相談室長等々の役職や数々の学内委員を務められ、本学の発展に大きく貢献されて来られた。

これらの教育にかける情熱と、その成果を先の歌に集約したつもりである。

上岡先生の私的な面について語るほどのお付き合いはなかったが、パソコンに対する造詣は大変深いものがあると認識している。多分、パソコンが登場して間もなく、操作を始められたものと推察している。その後の技術革新のスピードに遅れることなく、常に技術の最先端をカバーしているようである。この熱心さは、パソコンだけではなく、言語の学習にも向けられており、英語はもとより、ロシア語、ハンゲルと、その関心の範囲は非常に広範である。

もう一つ、「メン打ちが得意で、すぐに手打ちが出来上がる」と聞いたことがある。首を洗ってお付き合いをしなければいけないのかと思ってい

たら、剣道の達人ではなく、麵道の達人とのことである。また先生は麵道だけでなく、細かなことでも面倒がらず、他人の面倒もよく見る、温和な方である。

真面目な先生をお送りするに際し、真面目な文章が数多く寄せられるものと思い、先生の勤務された高崎経済大学には多様な教員がいたことをいつまでも忘れないでいただきたく、このようなお別れの文を書かせていただいた。

上岡先生、長い間ご苦労様でした。ますますのご研鑽を期待しております。